

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679400095
法人名	有限会社 ひだまり
事業所名	グループホーム ひだまり
訪問調査日	平成19年6月28日
評価確定日	平成19年7月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4679400095
法人名	有限会社 ひだまり
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	大島郡和泊町国頭2959-1 (電話) 0997-92-2398
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年6月28日

【情報提供票より】(平成19年5月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	食費に含む
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月7日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	5	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 88.4歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝戸医院 前田歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長寿クラブの定例会や文化祭など、地区の行事には積極的に参加している。また、バーベキュー大会を実施したり、避難訓練への参加をお願いするなど、地域の方々との交流も積極的に行っており、住民による「ひだまり守り隊」が結成されている。県道沿いのウッドテラスでは、学校帰りの子供たちや近所の人々とのふれあいがあり、気軽に立ち寄ってくださる。認知症高齢者のケアについて、教材の整備や全島の事業所との交換研修にも取り組み、他事業所や行政との強い信頼関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は、特に指摘された改善課題は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、自己評価や外部評価によって、日頃の管理者の指示の意味を、より深く理解するようになってきている。自己評価の場面には、入居者にも参加していただいている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者ご家族や町保健福祉課職員、地域包括支援センター職員、地区民生委員、地区長寿クラブ会長等が参加されている。議題としては、ホームの概要や事業計画、自己評価や外部評価について報告され、意見交換がなされている。また、子供たちとの交流が少ないという現状に対して、子供相撲大会の観戦を進める助言があり、実現に結びついている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	インターネットカメラにより、家族はいつでも入居者の様子を見ることができる。玄関にはご意見箱があり、苦情の窓口も明示されている。また、第三者委員の設置や独自の地域評価員制度により、運営に関して外部の意見を聞ける体制ができている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	様々な地域活動に参加したりして、地域との交流を活発に行っている。「子供110番」の担当になっており、学校帰りの子供たちが立ち寄り、入居者とのふれあいが日常的に行われている。避難訓練の際には、周辺の方々が大勢参加してくださる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるという独自の理念をつくり、ホーム内に掲示し、重要事項説明書等にも明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアの場面やミーティングで、理念について話し合う機会が持たれ意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	様々な地域活動に参加したりして、地域との交流を活発に行っている。「子供110番」の担当になっており、学校帰りの子供たちが立ち寄り、入居者とのふれあいが日常的に行われている。避難訓練の際には、周辺の方々が大勢参加して下さる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価や外部評価によって、日頃の管理者の指示の意味を、より深く理解するようになっている。自己評価の場面には、入居者にも参加していただいている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	子供たちとの交流が少ないという現状に対して、会議に出席した町の担当者から相撲大会見学への誘いがあり、それが実現に結びつくなど、実際のサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	勉強会の開催や講師派遣を通して、町及び社会福祉協議会との連携協力に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	インターネットカメラにより、家族はいつでも入居者の様子を見ることができる。暮らしぶりや健康状態、金銭管理などは毎月報告されているが、職員の交代については個別の報告はなされていない。	○	家族の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係をさらに深めるためにも、職員の交代についてその都度報告していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱があり、苦情窓口担当者及び責任者が明示されている。また、第三者委員の設置をはじめ、当ホーム独自の地域評価員制度により、運営に関して外部の意見を聞ける体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域性からみて馴染みの人間が多く、交代によるダメージは少ないが、できるだけ定着率を高めるように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議のあとに勉強会を実施している。関連法人主催の勉強会や外部の研修にも積極的に参加しており、持ち帰って報告会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の活発な交流や、職員の交換研修などを通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室が空いている場合には、無料で体験入居をしていただき、本人が安心して納得された上で、入居できるように配慮している。隣接する介護予防教室の参加者にも、入居者と交流していただき、馴染みの関係が作れるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理方法を教えていただいたり、下ごしらえを一緒に行うなど、入居者から学んだり、支えあいながらともに暮らしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のしたいこと、食べたいものについて聞き取り対応しているが、自己決定が困難な方については、ご家族や職員、その他総合的に判断して、共同決定という形で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の訪問の際や、こちらからの訪問により、本人、ご家族の希望を可能な限り反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族を交えて検討し、現状に即して介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や往診を受けながら、ホームでの生活が続けられるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っており、医師もインターネットカメラにより、入居者の日頃の様子を見ることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、ご家族、かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時や排泄介助の場面では、羞恥心への配慮がなされている。個人情報の取り扱いは、規定に則り慎重に行い、外部への必要な情報提供については、事前に同意文書を取り交わした上で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい日々が過ごせるように、買い物や散歩など、それぞれの方のペースにあわせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望を聞き、下準備も一緒に行っている。また、ガスコンロを食堂のテーブルまで運び、おいしい匂いを感じてもらい、ご飯の盛り付けも、敢えて釜に移し変えてから入居者の方によそってもらうなど、食事が楽しくなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、毎日入浴できる体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、それぞれの生活歴や能力を活かした役割、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物、食後のドライブや地域の行事への参加、海岸でのバーベキューなどに加え、ご家族も同行しての与論島や徳之島への一泊旅行も実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防団や住民の方々の協力を得て、毎年避難訓練を実施しており、訓練に参加した地域住民で、「ひだまり守り隊」が結成されている。台風接近の際は、船便欠航による物資不足に備えて買い出し、備蓄を行っている。また、停電に対しては自家発電機を備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	町の栄養士に献立表をチェックしてもらい、助言を受けている。食事摂取量は記録されており、水分については、一日の摂取量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中のほとんどの時間を過ごす食堂ホールは、天井が高く余裕のある空間となっている。また、道路に面したウッドテラスは、歩道を通る子供たちや近所の皆さんと気軽に話ができる、居心地の良い場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物の持ち込みも多く、自宅で買っていたペットと一緒に生活している入居者も居られる。		